

道徳通信

令和3年11月5日
赤ブロックNo. 3



「時を超えてつながる思いをみつめてみよう」～道徳「サグラダ・ファミリア」を通して考えました～

1882年着工のサグラダ・ファミリア。ガウディは、生涯を通して建築に取り組み続けました。「私がこの聖堂を完成できないことは、悲しむべきことではない。必ず、後を引き継ぐ者たちが現れ、より壮麗に命を吹き込んでくれる。」という言葉を残しています。この教会の彫刻を40年以上彫り続けている外尾悦郎さんは、サグラダ・ファミリアを「永遠の命をもった生き物のような大きな存在」と強く感じるようになり、「時代を超えた営みの中では、人間一人の命なんてちっぽけなもの」だから、「すごい生き物の一部になれることのほうが、喜びは大きい」と考えるようになります。ガウディの思いは外尾さんたちに引き継がれ、外尾さんの思いも次の世代に引き継がれていきます。

授業では、サグラダ・ファミリアの建設に携わる人々に関する文章を通して、時を超えてつながる思いを見つめました。

●● ●●くん

思いを拾ってくる人が世界には1人はいると言うことからそれが本当の奇跡だと思った。

●● ●●さん

時代を超えてまで作品を作ることは、すごいと思いました。人の思いが繋がれていると思った。

●● ●●くん

時を超えてつながる思いとは、言葉にして表さなくても作ってきた人の思いが伝わることだと思った。

●● ●●さん

時を超えてつながる思いとは、思いのバトンだと思った。

●● ●●さん

人から人へ思いが伝わり、信じることで新しいものや、新しく生まれ変わるものができていくのかなと感じた。

●● ●●さん

時を超えてつながる思い＝バトンという意見に納得した。思いがバトンとなって、ずっと後世に繋がっていくものになるんだろうなと思った。

●● ●●くん

どんなに時がかけ離れていても、一つのものに対する人々の思いが一緒であれば、時をも超えられるんだなと思った。

●● ●●くん

昔から今までずっと同じ作品を作り続けているひとがいるということが諦めない心が繋がっていてすごいと思った。

●● ●●くん

思いは人を強くして、サグラダファミリアのような雄大な建造物さえも創り出してしまうぐらい強い者だと感じた。

●● ●●さん

作り上げるというたくさんの人の意志があって現代まで繋がっているんだなと思った。

●● ●●さん

自分が作ったものには人にはあまり関わってほしくなかったり、自分で考えたものだから最後までやり遂げたいと私は思ってしまいます。でも、アントニ・ガウディはそうは思わず、逆に色々な人に携わって欲しいとあっていてそこが何年も人々に愛され続ける理由なんじゃないかなと思った。

